

2024年を象徴する「顔」としてトランプ次期米大統領の顔を壁画に

2024年を振り返り、ひとりひとりが来年を考えるきっかけにしてほしいとの願いを込めて

ミューラル（壁画）アートカンパニーの株式会社OVER ALLs（本社：東京都港区、代表取締役社長：赤澤岳人/ 画家・副社長：山本勇氣、以下「OVER ALLs」）は、東京・青山のOVER ALLs本社の外壁（トーキョーミューラルスクエア TOKYO Mural Square）に「今年1年を象徴する顔」としてアメリカのトランプ次期大統領を描きました。本社の外壁に描くのは、今年の顔でもあったドジャース・大谷翔平選手に続き、2人目となります。



壁画制作の経緯

トランプ次期大統領の選挙戦は、様々な議論を巻き起こしました。トランプ氏による人種差別的と見られるような発言、あるいは社会の分断を煽るかのような発言。そして物価高や経済格差の広がりに対する、社会全体での不満の高まり。トランプ次期大統領の存在は、私たちに民主主義の未来、あるいは世論形成や新旧メディアのこれからの在り様まで、突きつけるものでした。

こうした不透明な社会情勢は、なにもアメリカに限ったことではありません。日本でも、東京都知事選、衆院選、そして兵庫県知事選などを通じて、アメリカと同様の課題が浮き彫りになったとも言えます。

2024年は、どのような年だったのか。そして2025年を素晴らしい未来とするために、私たちにできることはなにか。ひとりひとりが忙しい年末の日常のなかで、ほんの一瞬でも考えるきっかけになってほしい。そんな想いを込めて、私たちは2024年を象徴する「顔」として、トランプ氏を描きました。



描き換え前の大谷翔平選手の壁画（2024年3月制作）

トーキョーミュージーラルスクエア（TOKYO Mural Square）

外苑前交差点の真ん中に位置するOVER ALLS本社ビル。そのビルの青山通りに面した壁面にミュージーラル（壁画）専用の壁を制作。毎月話題の人物やトピックをモチーフとしたミュージーラル（壁画）を描き重ねていく予定。NYのTimes Squareのように壁面がメディアとなるイメージからトーキョーミュージーラルスクエア（TOKYO Mural Square）と名付けた。

今後の描き換え

12月16日（月）、2025年1月8日（水）予定

代表・赤澤岳人の略歴



1981年生まれのロスジェネ、かつミレニアル世代。いわゆる「就職氷河期」に就職活動に挑むも「リクルートスーツを着る意味がわからない」と私服で面接に行ったところ、全滅。大学卒業後には法科大学院に入学したものの弁護士の夢を諦め、ニートとして過ごす。まさに「ロスジェネ世代の負け組」の典型のような20代を送る。

初めて定職に就いたのは29歳のとき。人材大手のパソナに契約社員として入社する。仕事に取り組むことで「自分の居場所」が出来ることの喜びを実感、このとき「仕事とは自己表現なのだ」と気付く。それを機に、契約社員ながら社内の新規事業コンテストに毎年、数十件もの事業アイデアを出し続け、3年目についに優勝を勝ち取る。正社員にも登用され、自身の企画した新規事業を立ち上げたのち、パソナから独立。

プライベートでイベントの企画・司会を行っていた頃に出会った同世代の山本勇氣（画家・現在のOVER ALLS副代表）とともに、OVER ALLSを設立。自分自身が20代の頃に見失っていたもの、そして日本人全体が「失われた30年」で忘れてしまったものでもある「夢」「希望」「浪漫」といった「こころが沸き立つ感情」（これらの総称が「WOW!」）を取り戻すべく、ミュージラル（壁画）で表現する活動を続けている。

会社概要：株式会社OVER ALLS

「ミュージラル（壁画）の力で、人々を表現者に変える」ことを目指して、全国各地で様々な作品を生み出し続けている。制作にあたっては徹底的に歴史や背景を調査し、想いを引き出すインタビューを実施。企業が社会、さらに組織で働く個人が伝えたい想い、歩んできた歴史を浮き彫りにして、ミュージラルとして表現している。「情熱大陸」や「news zero」「サンデージャポン」などメディア出演も多数。

住所：東京都港区南青山2-26-35

代表取締役社長：赤澤 岳人

<http://www.overalls.jp>

連絡先

OVER ALLS

TEL：03-6304-7212 Mail：mail@overalls.jp